

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定による

教育委員会の点検・評価

(令和5年度対象)

令和6年7月

富津市教育委員会

I はじめに

1 本市の点検・評価の概要

(1) 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条第1項の規定により、毎年、教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その報告書を議会に提出するとともに公表するよう定められています。

また、同条第2項では点検・評価にあたり、教育に関して学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

富津市教育委員会では、平成20年度の事業から毎年、点検・評価を実施してきました。

今般、令和5年度の点検・評価が終了しましたので報告します。

市民の皆様に、教育委員会が行っている日常の業務や課題を知っていただき、一層のご支援を賜りたいと考えています。

(2) 報告書の構成

令和3年1月に策定した『富津市教育施策（令和3年度～令和5年度）』をもとに、「学校教育の充実」と「生涯学習の充実」の2項目に分けて、それぞれ施策指標とそれに対する到達点を明示しながら、取組の実際と自己評価及び学識経験者2名の評価と意見を記載しました。

また、学識経験者の評価と意見は、分野ごとにまとめていただきました。

評価

A：事業の効果が現れている。

B：事業の効果が概ね現れている。（一部に問題がある。）

C：事業の効果があまり現れていない。（多くの問題がある。）

富津市教育委員会

令和6年3月31日現在

職 名	氏 名
教 育 長	岡 根 茂
教育長職務代理者	藤 平 慶 子
委 員	池 田 亨
委 員	坂 部 充 洋
委 員	嶋 野 和 正

2 教育委員の活動状況

(1) 定例会議等・・・毎月開催、必要に応じて臨時に開催

- 4月20日 ・富津市社会教育委員の委嘱について 等
- 5月19日 ・令和5年度富津市一般会計予算6月補正予算（第3号）案について 等
- 6月22日 ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱又は任命について 等
- 7月27日 ・富津市スポーツ推進委員の委嘱について 等
- 8月17日 ・工事請負契約の締結について 等
- 9月28日 ・富津市学校薬剤師の委嘱について 等
- 10月26日 ・専決事項（後援申請）の報告について 等
- 11月16日 ・令和5年度富津市一般会計予算12月補正予算（第6号）案について 等
- 12月21日 ・令和5年度富津市教育委員会教育功労者の表彰について 等
- 1月25日 ・富津市都市公園、市立公園及び体育施設の指定管理者の指定について 等
- 2月 9日 ・富津市教育施策の改定について 等
- 3月28日 ・第2次富津市子ども読書活動推進計画の策定について 等

(2) 教育委員会協議会・・・教育委員会の検討、協議の場合

- 6月23日 ・教育委員会の点検・評価（令和4年度対象）について
- 10月26日 ・学校再配置の進捗状況と課題について
 - ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果による本市の課題について
- 11月16日 ・富津埋立記念館の利活用について
- 12月21日 ・富津市教育大綱及び富津市教育施策の改定について
- 1月25日 ・青堀小学校改築基本構想・基本計画（案）について
 - ・大佐和中学校屋内運動場改築事業に伴う基本設計について
 - ・富津市子ども読書活動推進計画（素案）について
 - ・部活動の地域移行について

(3) 総合教育会議・・・市長、教育委員会により構成され、大綱の策定、教育を行うための諸条件の整備等、重点的に講ずべき施策等の協議・調整を行う。

- 5月19日 ・令和5年度の教育施策に係る重点取組事項について
- 1月25日 ・教育大綱及び教育施策の改定について

(4) 教育長及び教育委員の研修等

- 6月30日 千葉県都市教育長協議会全体会、分科会並びに情報交換会
- 8月24日 君津支部教育研究集会全体会
- 11月下旬 第1回教育長・教育委員研修会 オンライン開催
- 1月26日 第2回教育長・教育委員研修会

(5) 学校訪問

- ・7月4日 天羽小学校
- ・9月19日 天羽中学校

Ⅱ 点検・評価

1 学校教育の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
きめ細かな指導のために配置する指導員等の人数	外国人指導助手 (ALT) 3人	3人	3人	3人	3人
	自立支援指導員 4人	4人	3人	5人	5人
	適応指導相談員 2人	2人	2人	2人	4人
	指導補助教員 7人	10人	12人	12人	12人
	英語指導員 3人	3人	3人	3人	3人
	特別支援教育指導員 6人	7人	6人	6人	6人
	読書支援員 0人	3人	3人	3人	4人
	I C T支援員 0人	2人	3人	3人	3人
学力の向上 保護者アンケートによる「児童生徒が確かな学力を身に付けるための取組」に対する保護者の肯定的な評価の割合	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
	88.8%	92%	87.9%	80.7%	86.2%
読書活動の推進 読書が好きな児童生徒の割合	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
	80.7%	86%	81.5%	80.4%	77.7%

富津市に愛着や誇りを持つ児童生徒を育む活動の推進	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
自分の地域を肯定的に捉えられる児童生徒の割合	88.6%	90%	90.8%	92.4%	88.3%
自分の地域の良さが回答できる児童生徒の割合	94.5%	96%	91.0%	65.4%	69.1%
健康教育の推進	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
肥満傾向の児童の割合	12.3%	10%以下	10.7%	13.8%	15.0%
肥満傾向の生徒の割合	9.8%	8.5%以下	14.3%	12.7%	12.9%
歯垢が付着している児童生徒の割合	20%	15%以下	20.7%	18.4%	17.3%
学校を卒業した後も、自主的に運動やスポーツに取り組みたいと考える児童生徒の割合	75.8%	82%	88.0%	84.2%	82.2%

◎教育部全体での取組（教育かわら版の発行）

教育委員会が日頃行っている業務等について市民に周知し、理解していただくために教育かわら版を平成20年度から発行している。

今年度で通刊61号を迎え、各刊を区長回覧し、併せて市ホームページに掲載した。

7月発行の59号は、運動会の報告や読書の日、公民館カフェ、給食用食材の放射性物質検査結果等、11月発行の60号は、夏季休業中の小中学生自習室について、ノロウイルスの注意喚起、海外派遣交流事業、指定された学校以外への就学について等、2月発行の61号は、ニュースポーツの紹介、育英資金制度、就学援助制度、学校給食における地産地消の推進について等、多種多様な内容の紹介に努めている。



59号（令和5年7月発行）



60号（令和5年11月発行）



61号（令和6年2月発行）

(1) 教育総務課の取組

1 主な事業と決算見込額

- ・ 学校教育振興費 (15,308,677円)
 - 理科教育振興備品 1,980,000円
 - 教材備品 2,480,542円
 - 図書備品 3,255,676円
 - 楽器寄附ふるさと納税手数料 145,750円 等
- ・ 育英資金貸付金事業 (920,000円)
- ・ 大佐和中学校屋内運動場改築事業 (31,047,500円)
 - 耐力度調査及び基本・実施設計業務委託 16,896,000円
 - (R5-R6 継続費 契約金額 52,800,000円)
 - 測量業務委託 7,412,900円
 - (R5-R6 継続費 契約金額 32,230,000円)
 - 地質調査業務委託 6,738,600円
- ・ 青堀小学校校舎改築事業 (8,807,800円)
 - 基本構想・基本計画策定委託 8,360,000円
 - 行政経営アドバイザー報償費 103,500円
 - 不動産鑑定手数料 344,300円
- ・ 学校施設整備事業 (2,530,000円)
 - 天羽中学校駐車場舗装工事 2,530,000円

2 令和5年度の取組の概要と効果(成果・課題等)

- ・ 学校教育振興費

予算の適正な執行管理に努め、国の補助制度も活用し、各学校の教材等の充実を図った。

高額な備品等、限られた予算の中で全てを充足することは困難であることから、今年度は新たに楽器を調達する施策として、ふるさと納税制度の仕組みを活用し、全国から休眠楽器の寄附を募集する楽器寄附ふるさと納税を開始し、寄附を受納した。
- ・ 育英資金貸付金事業

利用実績が低いことから、育英資金の貸与上限額を引き上げる条例改正を行ったところ、2件の新規申込があり、貸付を開始した。
- ・ 大佐和中学校屋内運動場改築事業

耐力度調査、地質調査、測量等の設計に必要な業務を着実に遂行することで、基本設計が完了し、竣工(R7年1月予定)までの工程を示した。また、省エネ・省資源等に寄与する施設として、エコスクール・プラスに係る計画書の認定を取得した。
- ・ 青堀小学校校舎改築事業

令和4年度6回、令和5年度4回の計10回の検討委員会を開催し、検討委員の意見や行政経営アドバイザーの助言を得るとともに、在校児童の声を参考とするため児童ワークショップを実施することで関係者の合意形成を図り、改築の基本方針や配置計画等について定めた改築基本構想・基本計画を令和6年2月に策定した。

・学校施設整備事業

天羽中学校（R2年3月新校舎供用開始）の外構が未整備となっていた市道湊富士見台線に隣接する駐車場の一部について、同市道整備と併せて舗装工事及びフェンス設置工事を実施した。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・奨学金の返還支援に関する新規施策として、企業が従業員に対して奨学金の返還を支援した場合に、市が企業に補助金を交付する補助制度を施行したことから、企業への周知に努める。
- ・各学校で保有する不用品の把握に努め、将来の負の遺産とならないよう、適正な処分を進めていく。
- ・大佐和中学校屋内運動場の使用中止により学校運営に支障が生じていることから、早期改築を実現するため、実施設計を計画的に遂行し今年度中に着工、令和7年度中の完成を目指す。
- ・青堀小学校校舎改築事業は、昨年度策定した改築基本構想・基本計画を具体化するため、基本設計、地質調査を計画的に遂行し、実施設計に着手する。
- ・学校施設については、富津市教育施策に掲げる安全・安心な教育環境づくりに努めるとともに、「富津市小・中学校再配置計画」、「富津市学校施設整備基本計画」に基づき、施設の老朽化対策及び教育の資質向上を図るため計画的な整備を実施する。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

各事業とも概ね計画通りの進捗は図られているものの、理科や図書備品の充足率が十分でないこと、学校施設については、校舎等施設の老朽化対策に課題があること、引き続き大佐和中学校屋内運動場の使用を中止し、大貫小学校及び大佐和中学校両校の学校運営、教育活動に制約が生じていることや、青堀小学校改築校舎の工事着手を1年遅らせることになったことなどを総合的に勘案し、自己評価は、「B」とした。

(2) 学校教育課の取組	
1	主な事業と決算見込額 ・特別支援教育指導員配置事業（11, 140, 782円） ・学校給食管理運営事業（131, 451, 5101円） ・給食材料費（162, 148, 833円） ・給食施設整備事業（482, 823, 153円） ・食育推進事業（1, 482, 852円） 食育推進事業費 10, 260円 小・中学校保健管理費 1, 472, 592円 ・学校における歯科保健指導事業（0円） ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業（23, 720, 755円） ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業（2, 995, 450円） ・子どもの成長応援臨時給付事業（25, 322, 233円）等
2	令和5年度の取組の概要と効果（成果・課題等） ・特別支援教育指導員配置事業 通常学級で過ごす特別な支援を必要とする児童・生徒のために、6人の指導員を雇用し、延べ6校に派遣した。 ・学校給食管理運営事業 共同調理場2箇所（大貫、天羽）及び単独校調理場（青堀）の調理等業務並びに受配校への配送等業務を、民間会社に委託し継続して実施した。また、富津市学校給食の管理に関する条例及び施行規則を制定し、重要な進路決定を控える中学3年生の保護者及び多子世帯の経済的負担軽減のため、県の給食費無償化事業の要件を市独自に緩和し、中学3年生及び第3子以降の学校給食費の無償化を実施した。 ・給食事業 年間192日の給食を実施し、児童・生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。また、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、給食材料価格が高騰する中、保護者の負担を増加させることなく、質・量を維持した給食を提供できるよう給食材料費予算を増額した。また、給食で提供する主な食材の放射性物質検査を行い、検査した延べ16品目全てで放射性物質は「不検出」だった。 ・給食施設整備事業 新共同調理場の建設に向けて、令和4年度から継続して実施していた敷地造成工事及び埋蔵文化財発掘調査業務を終え、「富津市学校給食共同調理場実施設計」に基づき、「富津市学校給食共同調理場建設工事」を開始した。併せて、大貫小学校配膳室工事及び吉野小学校配膳室建設工事設計業務を実施した。 ・食育推進事業 栄養教諭を食育指導員として、各小・中学校において食育指導（授業の実施・生活習慣病等の改善を要する児童生徒及びその保護者に対する個別相談等）を実施した。（食育指導員派遣回数 延べ41回。） 健康づくり課と連携し、令和2年度から中学2年生に実施しているHbA1c検査の結果が正

常高値かつ肥満度20以上であった生徒のうち、保護者が希望した生徒を対象に、各中学校において、保健師・栄養士等による2型糖尿病発症予防指導を個別に実施した。(対象者39名中24名に実施)

- ・学校における歯科保健指導事業

健康づくり課と連携し、歯科衛生士により小学1年生を中心に歯科保健指導(染め出し等)を実施した。(小学校6校、中学校2校)

- ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業

準要保護児童・生徒として288人(前年度比+11人)を認定し、学用品費・給食費・通学費・医療費等の援助を行った。

- ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業

特別支援学級在籍の児童・生徒75人(前年度比+2人)を認定し、学用品費・給食費等の援助を行った。

- ・子どもの成長応援臨時給付事業

物価高騰の影響を踏まえ、習い事や体験活動などにかかる経費の負担を軽減し、将来を担う子どもたちが豊かな成長につながる機会を得られるよう、対象児童一人あたり1万円を支給した。

- ・学校再配置事業

学校再配置についての保護者の理解を得るために、PTA本部役員や保護者への説明会(佐貫小学校保護者説明会3回、環小学校保護者説明会3回、大貫小学校PTA本部役員説明会1回、天羽小学校PTA本部役員説明会1回)を実施した。説明会や、実施したアンケートで出された意見や質問などを集約し、アンケート結果や回答を文書で配付するとともにホームページで公表した。

○今後の取組の方向性(改善策等)

- ・特別支援教育指導員配置事業

今後も各学校のニーズに応じた増員に向け、更なる充実を図る。

- ・学校給食管理運営事業

現在3箇所ある調理場を統合し、新共同調理場が完成するまでの間、既存調理場の安定した運用のため、施設及び厨房機器等に必要な維持補修、修繕等を実施する。また、学校給食費の徴収・管理業務については、口座振替未登録者への登録の依頼及び未納者への納付相談及び臨戸徴収を実施する。

- ・給食事業

安全・安心な給食の安定した継続のため、給食従事者研修の充実、食材の安全確保に努める。また、給食に使用する食材の地産地消を推進し、各調理場での取組を公表する。

- ・給食施設整備事業

新共同調理場の建設工事完成に向けて進んでおり、学校給食用食器・食缶・調理用備品等の購入や調理用業務委託などの準備を進め、令和7年4月の供用開始に向けて、備品の搬入及び開場に向けてのシミュレーション等を実施する。併せて、青堀小学校及び吉野小学校配膳室工事並びに大貫・天羽共同調理場及び青堀小学校調理場解体工事設計業務を実施する。

- ・食育推進事業

児童生徒及びその保護者が、生涯健康な生活を送ることができる環境を整えることを目的に、継続した指導が実施できるよう検討する。

- ・学校における歯科保健指導事業

感染症対策に留意し染め出しを行うなど、内容を工夫して、歯科衛生士と連携した指導を実施する。

- ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業

引き続き、経済的な理由によって就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対し、就学に必要な援助を実施し、経済的負担の軽減を図る。

- ・学校再配置事業

学校再配置に対して地域の方々の理解を得るための地域住民説明会を実施していく。地域住民説明会を実施した後、学校再配置の検討委員会を組織するなど、学校再配置に向けた準備を行っていく。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

給食関連事業の進捗の状況については、各事業とも概ね計画通り進められている。

また、学校再配置事業についても、該当する学校の保護者への再配置に関する説明会を数回実施するなど、概ね計画通り進められている。

しかしながら、特別支援教育指導員配置事業については、目標値に対して不足していること、歯科保健指導事業については、実施している学校の割合は多いが、全校実施ができていないこと、食育推進事業では、肥満傾向の児童生徒の割合が目標値に対して達していないことなどから、総合的に勘案し、自己評価は、「B」とした。

(3) 教育センターの取組

1 主な事業と決算見込額

- ・学力向上推進事業（16,811,926円）
- ・教職員研修推進事業（65,151円）
- ・外国語指導助手配置事業（13,464,000円）
- ・ICT教育推進事業（47,601,924円） 等

2 令和5年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

- ・学力向上推進事業

きめ細かな指導のために配置する指導員等については、多くの職種において、目標値以上の人数を配置できている。保護者アンケートによる「確かな学力を身につけるための取組」に対する肯定的な評価は、昨年度より6.2%伸びた。

市内全小中学校に、指導補助教員12人（小学校9人・中学校3人）を配置し、授業において個の課題に応じたきめ細やかな指導ができる体制を整え学習支援等を行った。また、全ての小学校で、主に低学年を中心とした希望者に放課後学習教室を実施し、児童の学習のつまずきや困り感の解消と学習意欲の向上を図った。

児童は、アンケートで「勉強をする場所として、放課後学習教室は役に立ちましたか」の問いに対して、96%が「とても役に立った・役に立った」と回答した。次年度は、放課後学習教室の全校実施が4年目となるので、指導内容の充実を図る。

また、小中学生の学習習慣を確立するため、新一年生に「家庭学習の手引き」を配付した。

なお、学力向上推進委員会では、重点を置いている「読むこと・書くこと」について、目標値を定め、その達成に向けて各学校で、読書量を増やすための工夫や、自分の考えをしっかりと持って書かせるといった授業改善など、対策を講じて取り組んでいる。

令和5年度末の結果は、以下のとおりだった。

○「読むこと」について、『読書が好き、どちらかというとき好き』と答えた児童・生徒の割合 小学生81%・中学生71%

○小学生で「1日16分以上読書をする児童の割合」32%

中学生で「全く読書をしない生徒の割合」56%

○「授業で黒板に書いてあることを書き写している児童・生徒の割合」

小学生79%・中学生86%

○『自分の考えを書きなさい』と発問されたときに自分の考えをまとめて書くことができる児童・生徒の割合 小学生87%・中学生88%

以上のことから、読書が好きな児童・生徒を更に増やしていくために、一層の創意工夫と継続的な取り組みが必要である。

※その他、「富津市に愛着や誇りを持つ児童生徒を育む活動の推進」に関連し、「自分の住んでいる地域や富津市の良さは何か」の問いについては、令和4年度からタブレットを用いての回答としたため、記述するための文字入力技術の習得が追いついていないという要因もあり、令和4年度は大きく低下（前年度比-30.7%）していた。そうした要因がありながらも、令和5年度については、コロナ禍があげ、校外学習等の制限がなくなり、

地域学習の推進が進んだことにより、前年度から3.7%上がり、69.1%となっている。

・教職員研修推進事業

令和5年度の夏季教職員研修会はGIGA・プログラミングの推進・教育相談・国語・図工美術・富津市を学ぶ等の13講座を開設し、延べ286人の参加があった。本研修会は希望制で実施しており、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、各会場で研修を実施した。

若年層教員が増えている今、教員の指導力向上に向けて、授業づくりや学級づくりの基本的な内容を研修に取り入れるなど、若年層のニーズに応えられるように努めた。

・外国語指導助手配置事業

令和5年度は、外国語授業等で活用できるよう、3人のALTを市内小中学校にそれぞれ配置した。また、英語教育推進事業では、3人の英語指導員を市内小学校に配置し、外国語科・外国語活動において、ALTとともに担任の指導を補助し、授業の充実を図った。

(青堀小学校・大貫小学校は、専科教員が勤務しているため、指導員の配置はしない。)

・ICT教育推進事業

学校や家庭のインターネット環境が整備されたことにより、情報端末を活用した学習活動を充実させることができた。夏季教職員研修会において、本市導入のソフトウェアに関する実践研修を行うことで、指導する教職員の資質向上を図った。また、各学校で校内研修会等を通じて、アプリ機能の理解、授業での活用事例を共有した。

ICT支援員については、3人がそれぞれ各校を訪問(半日×7回/月程度)し、授業支援やICT環境整備支援を行った。

・富津市通学路安全対策協議会

児童生徒の登下校時における通学路の安全確保に向けた取組を関係機関(富津警察署、国・県道路関係者及び市関係部署、PTA代表等)が連携して推進し、各学校から報告のあった通学路の危険箇所の合同点検を行い、改善策等を協議し、対策を実施した。

その他、生徒指導・教育相談体制として、自立支援指導員5人を小学校3校・中学校2校に、適応指導相談員4人を適応指導教室に継続配置した。また、引きこもりや不登校、家庭内暴力や発達、障がいなどに関する悩みについて、心療内科精神科の専門医による相談を実施し、12件の相談があった(前年度比+4件)。

県配置のスクールカウンセラーは、配置日数に差はあるが、年度途中から全小中学校に配置され、相談件数は延べ1,657件(前年度比+578件)であり、教育センターへの電話及び来所による相談は17件(前年度比-4件)であった。教育センターでの「いじめ相談メール」については、QRコード付きのカードを全児童・生徒に配付し、友人関係や学校生活についての悩みがある場合の相談方法について周知した結果、令和5年度は2件の相談があった。

今後も児童生徒の学校生活を充実させるために、学校との連携を図る。

○今後の取組の方向性（改善策等）

・学力向上推進事業

児童生徒に「読むこと」「書くこと」の取り組みを継続させ、特に読書活動の推進に重点を置き、読書好きの子どもを育てることを大切にする。

具体的には、読書支援員を有効活用できるように支援を行うとともに市立図書館との連携を進める。

市内全小学校での放課後学習教室については、更なる内容の充実を目指す。

※その他、「富津市に愛着や誇りを持つ児童生徒を育む活動の推進」については、子どもたちが自分たちの住む地区から富津市全体に視点を広げ、富津市の魅力に気づいていけるように支援していく。また、令和6年度、7年度の2年間で社会科副読本の改訂作業をする際に、動画資料を添付するなど、子どもたちにとってより魅力的で学びが深まる副読本となるようにする。

・教職員研修推進事業

若年層教員が増加しているため、ニーズに合った研修の充実に努め、教員としての専門性の向上を図る。

・ICT教育推進事業

ICTを活用した学習環境は概ね整ったので、今後はICTを活用した授業改善を進め、文部科学省が掲げる「個別最適化された学び」を実現するための授業改善を一層図っていく必要がある。また、機器を導入してから年数が経過し、端末の経年劣化による故障なども考えられるので、適切な運用を継続する。

今後も、教育センター職員がきめ細かな学校訪問等を通して、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、教職員の指導力向上などの様々な側面から支援を行う。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

富津市教育施策に掲げる目標値に対する到達点から判断すると、目標値に及ばないものが多い。要因として、令和4年度から児童生徒への調査方法をタブレットでのオンライン回答にした影響やコロナ禍により教育活動に制限があったことなどの影響もあるが、学校・児童生徒・保護者のニーズに応え切れていない等の課題もある。

しかしながら、昨年度と比較すると、「確かな学力を身につけるための取組」の保護者評価や「自分の地域の良さが回答できる児童生徒の割合」については、改善傾向である。コロナ禍における様々な制限が解除され、事業の展開を工夫してきた結果であると考ええる。

また、教職員研修推進事業やICT教育推進事業なども、概ね計画通り進んでいる。

以上のことから総合的に判断し、自己評価を「B」とした。

外部評価者による評価

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

学校施設の老朽化が懸念される中で、青堀小学校校舎の改築や大佐和中学校体育館の改築、共同調理場の建設などの事業が着実に進行していることは大変すばらしいと思います。

一方で、各学校の施設については修繕が必要なものが多々あることと思います。例えば、学校の屋外プール施設の劣化もその一つです。今後、学校再配置計画に合わせて、学校施設の修繕や改築についての中長期的な計画を示していく必要があるのではないのでしょうか。

児童生徒のきめ細かな指導のために配置する指導員の確保は、教員不足の中、大変なご苦労があったのではないかと推察いたします。児童生徒が減少する中ですが、教職員の負担軽減も含めて今後も維持拡大をしていただきたいと思います。

また、富津市の教職員の負担軽減について教育委員会としてどのような取り組みがなされ、どのような成果や課題があるかとらえているのでしょうか。多忙化の原因は様々であり、教職員の自助努力だけでは解決できないことがあります。学校内部の問題だけではなく、教育委員会、関係団体等からの調査や保護者や地域住民からの要望やクレーム対応など外的要因によって多忙化を招いていることもあります。こうした点を踏まえつつ、多忙化解消の取組について教育委員会としての対応について触れていただきたいと思います。

環小学校、佐貫小学校の再配置については、地域保護者等への説明会が今後も継続的に進められるようですが、保育所(園)・幼稚園に在籍する保護者へも案内を出すなどきめ細かな配慮がなされていると思います。子供たちが集団生活の中でより良い学習ができるよう地域との合意形成をしていただきたいと思います。

食育基本法が制定される以前から、本市での食育推進事業は学校栄養士を中心として進められてきており、各学校での食育指導も充実していると思います。今後、共同調理場が一つとなり学校栄養士の人数も限られてきますが、これまでの成果を生かしながらより一層の充実を望みます。

今年度は、肥満傾向の児童生徒の割合が多いなどの結果から市の健康づくり課と協力して生徒の指導を行ったことは新たな試みとして素晴らしいことだと思います。これからの食育や健康教育に生かしていただきたいと思います。

育英資金貸付金事業とタイアップした形で奨学金返還を支援する企業に補助金を交付する制度は、優秀な人材を地元に確保できる制度として広く周知をしていただきたいと思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価 B

第1項目の「学校教育の充実」に向けて、令和5年度においても教育総務課、学校教育課、教育センターにより、新たな事業も含め様々な取り組みが進められていることが確認できました。

学校施設の老朽化に対する対応は、予算面に限らず、体制の問題、そこで学ぶ児童生徒の皆さんへの影響をはじめ様々な調整等が必要なことから、思うように進まない事もあると思いますが、大佐和中学校、青堀小学校の学校施設の改修、新共同調理場の建設については、着実に進行していると受け止めております。

様々な課題があることと思われませんが、引き続き安全で安心できる施設の確保に向けて維持・改善に努められるようお願いいたします。

令和5年度において、学校環境及び学習環境の充実を目指し、「楽器寄附ふるさと納税」を開始されるとともに、「育英資金貸付事業」の改正を行い、新規の申込者があったことは、苦心の成果が表れたものと思います。今後においても改善が可能なことを見逃さずに業務を進めていただくようお願いいたします。

また、令和5年度は教育施策の施策目標到達点を定めた年度であり、この到達点を見ますと、「きめ細かな指導のために配置する指導員等の人数」では、目標を達成、あるいは超える指標が多く見られ、令和5年度には適応指導相談員が、これまでの2名から倍の4名と目標を超すような充実が図られています。何らかの必要性に速やかに対応を図ろうとしたことと受け取っておりますが、このように目標値にとらわれることなく、いま必要なことに速やかに対応しようとする姿勢の確保を引き続きお願いします。

「学力の向上」では、低下傾向でありました保護者評価が改善しているようです。今後も肯定的な評価の向上を望みます。

重点としている読書については、「読書活動の推進」の伸び悩みがみられるとともに、「健康教育の推進」については、何らかの工夫が必要に感じられます。次期の目標達成に向けて更なる取り組みに期待をいたします。

2 生涯学習の充実

『富津市教育施策』の施策目標と到達点

指 標 名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
学び、生かす生涯学習の推進					
公民館・市民会館利用者数	96,475人	100,000人	47,210人	52,287人	51,571人
人材バンク「まちの先生」の利用件数	62件	70件	28件	46件	44件
図書利用冊数	31,416冊	32,000冊	26,955冊	32,472冊	200,103冊
家庭教育への支援と連携・協働の推進	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
放課後ルーム開設数	1箇所	4箇所	3箇所	3箇所	3箇所
青少年相談員連絡協議会事業の参加者数	1,075人	1,100人	342人	1,810人	1,474人
文化財の保存・活用と文化芸術活動の推進	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
指定・登録文化財の件数	85件	87件	87件	87件	90件
文化財来訪者数 (市案内分)	466人	500人	350人	450人	514人
市民文化祭参観者数	14,271人	18,000人	※一	9,126人	9,140人
スポーツ・レクリエーションの振興	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和5年度)	令和 3年度	令和 4年度	到達点 (令和5年度)
スポーツ関連の行事参加者数	13,730人	14,000人	2,450人	4,173人	5,114人

(1) 生涯学習課の取組

1 主な事業と決算見込額

- ・家庭教育支援事業 (5, 788円)
- ・生涯学習バス運営事業 (7, 847, 241円)
- ・図書館関係事業 (131, 480, 429円)
- ・ブックスタート事業 (153, 527円)
- ・青少年相談員活動事業 (853, 062円)
- ・青少年健全育成事業 (446, 250円)
- ・文化財保護事業 (22, 334, 524円)
- ・市内遺跡発掘調査事業 (2, 208, 095円)
- ・民間開発発掘調査事業 (1, 396, 891円)
- ・富津市ふれあいスポーツフェスタ事業 (782, 722円) ※雨天中止
- ・社会体育振興事業 (3, 191, 870円)
- ・スポーツ少年団交流事業 (中止)
- ・市体育施設管理運営事業 (50, 744, 533円)

2 令和5年度の取組の概要と効果(成果・課題等)

- ・生涯学習推進事業等

市民の多様な学習を支援するため、人材バンク「まちの先生」による学習支援情報など生涯学習に関する機会や行事を掲載した「富津市生涯学習情報提供誌」を作成し、市役所・公民館等の窓口で希望者に配布したほか、市ホームページや「ちばりすネット（千葉県生涯学習情報提供システム）」に情報提供し、周知を図った。

- ・生涯学習バス運営事業

令和4年2月から2台体制の運行を開始し、市民の生涯学習活動が活発となったことも影響し、令和5年度は281回の運行・利用者6,654人と年々増加している。(前年度比+55回・+1,498人)。

- ・図書館関係事業

市立図書館の開館や電子図書館の開設など図書環境が充実したことにより、貸出冊数は200,103冊と大きく増加した(前年度比+167,631冊)。

また、市立図書館については、更なる環境整備のため、寄附金を活用して蔵書整備を行い、開館時65,039冊だった蔵書数は、81,986冊まで拡充した。

- ・ブックスタート事業

4か月児健診時に絵本を1冊贈り、赤ちゃんと保護者が絵本を介して心がふれ合う時間を持つきっかけを提供した。令和5年度は100人の赤ちゃんに絵本を贈った。

- ・青少年相談員活動事業

君津地区4市の青少年相談員が合同で行う「地域のつどい君津地区大会」は、当日の天候不順により中止となったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いたことにより、各地区の行事が再開され、多くの子ども達が参加し、親睦を深め、友情を培うとともに、

心身の健全な育成が図られた。

- ・青少年健全育成事業（子ども会活動事業）

子ども会ジュニアリーダー初級研修会として、君津亀山少年自然の家において野外活動体験会、育成大会事業として、飯野コミュニティセンターにおいてビンゴ大会、そのほか、かるた大会やサマーデイキャンプなど、様々な行事・活動が開催され、子ども同士や、地域の大人たちとの交流を深め、子どもたちの健全な育成に貢献した。

- ・文化財保護事業

文化財周知板設置事業では、鶴峯八幡宮再興棟札（八幡）、諸岡太左衛門の墓（金谷）、白山の大スギ（宝竜寺）、三条塚古墳（下飯野）の説明板の老朽化に伴い、付け替えを実施した。

文化財・文化財施設環境整備事業では、古墳等の草刈・樹木伐採等を実施した。

鋸山日本遺産「候補地域」活用推進協議会事業では、令和3年7月に鋸山が日本遺産「候補地域」に認定されたことを受け、鋸南町との共同で設立した鋸山日本遺産「候補地域」活用推進協議会によって各事業を実施した。令和5年度は、鋸山の新たな付加価値を創出するための「鋸山石切場遺構・千五百羅漢調査」、鋸山の魅力を来訪者へ伝えるため「有償ガイドの育成」、子どもたちの日本遺産への認知度を高め、地域への愛着を持ってもらえるよう、小中学校での「鋸山の教室」を開催するなど、計8事業を実施した。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の改修、発信器の装着、事業対象である高宕山周辺に生息するニホンザル個体群を対象に行動域の調査、指定地域の生息環境調査を実施した。

内裏塚古墳群など市内の史跡見学会や講演会などへの参加者は、514人（前年度比+64人）であった。

- ・市内遺跡発掘調査事業

個人住宅建設、小規模宅地造成に伴い、亀塚遺跡、飯野陣屋本丸跡、向原遺跡の計3箇所の発掘調査を実施した。

- ・民間開発発掘調査事業

民間開発発掘調査事業に伴い、飯野陣屋二の丸跡の発掘調査を実施した。

- ・社会体育振興事業

新型コロナウイルス感染症が5類移行となったことから、市民が積極的にスポーツに親しみ、健康づくり・体力づくりができるよう、スポーツ推進委員やスポーツ協会等と連携し、各種スポーツ大会やスポーツ教室を実施した。

第29回健康ウォークラリー大会 40人（前年度比-44人）

富津市長杯争奪少年野球大会 126人（前年度比+59人）

富津市教育長杯争奪少年サッカー大会 110人（前年度比-10人）

第39回F T S 少年剣道大会 342人（前年度比+121人）

「県民の日」記念第41回グラウンドゴルフ大会 64人（前年度比-14人）

「県民の日」記念第41回バドミントン大会 70人（前年度比-35人）

第30回F T S 杯争奪少年柔道大会 （中止）

君津地区スポーツフェスティバル祭歩け歩け大会 308人（前年度比+128人）
 第42回F T S杯争奪インディアカ大会 7人（前年度比-5人）
 第32回F T S杯争奪ソフトバレーボール大会 27人（前年度比+35人）
 第29回F T S杯争奪グラウンドゴルフ大会 63人（前年度比+6人）
 第42回F T S杯争奪少年野球大会 70人（前年度比0人）
 第11回ふれあいドッジビー大会 59人（前年度比+59人）
 富津市教育長杯争奪少年野球新人大会 85人（前年度比+24人）
 ふれあいスポーツフェスタ2023（雨天中止）
 君津地区スポーツフェスティバル祭（インディアカ・ソフトバレー・グラウンドゴルフ） 53人（前年度比+8人）
 第48回ママさんバレーボール大会 71人（前年度比+46人）
 第40回市民ハイキング 48人（前年比+48人）
 第53回元旦歩こう大会 326人（前年度比+52人）
 第53回新春バドミントン大会 79人（前年度比+3人）
 第36回新春グラウンドゴルフ大会 85人（前年度比+16人）
 スポーツ教室（毎週土曜日） 3,022人（前年度比+744人）

・市体育施設管理運営事業

公益財団法人富津市施設利用振興公社・ミズノ共同体を指定管理者として適正な運営に努め、市民サービスの向上を図った。

《令和5年度利用実績》

○総合社会体育館

メインアリーナ	893件・30,896人（前年度比+6件・-241人）
サブアリーナ	1,683件・11,333人（前年度比-11件・+3,939人）
トレーニングルーム	449件・551人（前年度比+125件・+170人）
会議室等	21件・244人（前年度比-27件・-114人）

○富津運動広場 57件・993人（前年度比+9件・+495人）

○新富運動広場 198件・10,890人（前年度比+19件・+1,775人）

○浅間山運動公園

テニス	769件・4,119人（前年度比+38件・+15人）
フットサル	19件・252人（前年度比+6件・+91人）
野球	97件・4,033人（前年度比0件・+449人）

・小中学校体育施設開放事業

63団体 5,738日 110,896人（延数）（前年度比+4団体・-867日・-19,043人）

・第46回千葉県民マラソン大会（千葉日報社・富津市陸上競技協会主催、富津市共催）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から大会中止が続き、大会を取り巻く環境も大きく変化し、主催者である千葉日報社の運営が難しくなっているため、令和5年度も中止となった。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・生涯学習推進事業については、君津地域4市での推進大会への市民参加を促すとともに、生涯学習情報提供誌の発行や、「まちの先生」事業を継続して実施する。
 - ・家庭教育指導員・支援員及び社会教育指導員による「放課後ルーム」や「学習サポート会」の活動を通じて、地域学校協働活動の推進を図り、空き教室を利用した地域住民の「活動の場所」や「居場所づくり」を目指す。
 - ・図書館関係事業では、よりよい図書館サービスを提供するため、図書館協議会の意見等を吸い上げながら、市立図書館を基幹館として、公民館図書室、移動図書館、学校等と連携し、図書施設の利用促進を図る。
 - ・文化財保護事業については、各種開発から埋蔵文化財を守り、引き続き保護と継承に努め、保存と活用を図る。
また、開発により保存できない場合には、発掘調査による記録保存の策を講じる。
 - ・史跡等公有地化整備事業では、内裏塚古墳の公有地化を進めるとともに、内裏塚古墳群全体としての国史跡化を目指し、文化庁・千葉県など関係機関と調整を図る。
 - ・鋸山については、引き続き鋸南町と共同し、日本遺産「候補地域」活用推進協議会で地域活性化のための各種事業を実施し、令和6年度の日本遺産本認定を目指す。
- その他、文化財関係事業として、市内の文化財周知板の整備を進め、新設や老朽化に伴う更新のほか、指定物件以外でも重要性の高いものについては、地域団体等の協力を得て説明板を設置し、市民や来訪者への周知に努めるとともに、市のホームページの充実を図るなど、広報活動に努める。
- ・社会体育振興事業では、スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、各種スポーツイベント等に、より多くの参加が得られるよう内容や周知方法等を検討する。
- また、身近な地域で生涯にわたってスポーツに親しめるよう総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。
- ・小中学校体育施設開放事業では、各団体の利用を調整し、健康増進、スポーツの振興を図る。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

各事業とも概ね順調な進捗は図られているものの、生涯学習推進事業では、人材バンク「まちの先生」の登録者数が減少していることもあり、新型コロナウイルス感染症が5類移行となっても利用件数の増加に課題が見られる。

スポーツ・レクリエーションの振興においては、大きな行事の開催が、天候や共催事業の主催者の状況に左右されること、小中学校体育施設開放の利用者減の大半は、大佐和中学校屋内運動場の使用中止によるものであるが、利用団体の登録者数も減少していることから、自己評価は、「B」とした。

(2) 公民館等の取組

ア 中央公民館

1 主な事業と決算見込額

- ・中央公民館管理運営費 (14, 529, 360円)
- ・中央公民館学級・講座関係費 (476, 484円)
- ・市民文化祭事業 (692, 605円)

2 令和5年度の取組の概要と効果(成果・課題等)

・中央公民館管理運営

施設整備として、変電設備遮断器修繕工事、図書室空調設備設置工事などを実施した。

また、調理室の環境整備のためガス炊飯器2台の備品購入を行った。

・中央公民館学級・講座関係

市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全14の学級・講座(前年度比±0)を開講した。

新規の学級・講座として「ジビエ料理教室」「ホール照明講座」「フォトテク上達セミナー」を実施し、学級・講座全体の開催回数は96回(前年度比-4回)、参加延人数1,260人(前年度比+69人)であった。

・市民文化祭事業

生涯学習活動の成果を発表し、親睦と融和を図り豊かな文化の向上と創造の心を養うことを目的として、文化祭参加者により組織される「富津市民文化祭実行委員会」の企画運営により、10月27日(金)から10月29日(日)の3日間、総合社会体育館・富津公民館(埋立記念館)・中央公民館・市民会館の4会場で開催した。

多くの来場者が見込まれる子どもまつりは、開催日が雨天となったが、来場者は開催期間中全会場合計で9,140人(前回比+14人)であった。

※施策目標と到達点「公民館・市民会館利用者数」(3館共通)

目標値に対し到達点の利用者数が減少したことについては、新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等の発令により、休館とした期間があったことなどが大きな要因である。令和3年度以降はイベントや主催事業の再開などにより、利用者数は回復傾向にあるものの、依然として活動が停止しているサークルや解散となったサークルなどがあり、利用者数が伸び悩んでいる状況である。

※施策目標と到達点「市民文化祭参観者数」

目標値に対し到達点の利用者数が減少したことについては、コロナ禍の影響によって大きく減少したものであり、令和3年度は開催していない。なお、令和4年度の実績と令和5年度の実績を比較すると僅かではあるが参観者数は増となった。

○今後の取組の方向性（改善策等）

- ・中央公民館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者の環境整備に努める。
 - ・公民館学級・講座関係については、前年度に実施したアンケート結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に、次年度に向け参加者アンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。
 - ・市民文化祭事業については、出展・出演やメインテーマのインターネットによる申込みなど多くの方が参加しやすい環境の整備を引き続き実施する。
- また、参観者に開催内容を分かりやすく周知するため、全会場共通パンフレットを作成し利便性の向上を図り、多くの市民等が相互に交流することで文化の普及・向上につなげる。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

中央公民館は建築後５３年を経過し老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。また、図書室へ個別空調機を設置し利用者の利便性向上を図った。

主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ることができた。

市民文化祭については実行委員会を中心に実施し、コロナ禍前の参観者規模には及ばないものの多くの来場につなげることができた。

以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

No.	講座の名称	開催回数	参加延人数	講座の主旨と内容
1	いきいき健康体操教室	9	145	運動の日常化をめざし、四肢を動かし、心身の健康増進を図る。
2	シルバー生きがい学級	6	84	高齢者問題や社会問題等の学習を通して、知識の向上と参加者同士の交流を図り、生きがいのある生活の手助けとする。
3	キルト教室	11	125	キルトで作る小物入れや人形など生活に取り入れやすい作品づくりを学ぶ。
4	大人のわらべ歌講座	6	107	声を出す・からだを動かす・頭で考えるに、「笑う」も加わったわらべ歌による心身のリフレッシュ講座。童謡・唱歌・わらべ歌の違いなど、奥深い魅力にふれる。
5	フラダンス教室	8	101	フラダンスの基本のステップやハンドモーションを使って毎月ハワイミュージックや日本のポップスを楽しく踊る。フラは体幹を鍛えるのに最適な舞踊で、運動が苦手な方にも楽しいエクササイズを提供する。
6	ジビエ料理教室	2	29	鳥獣被害が深刻化する中で、“ジビエ”を地域資源としてとらえ有効活用する前向きな取り組みとして種々の料理の作り方などを学ぶ。
7	紙バンド手芸教室	9	125	古紙から再生される環境に優しい紙バンドを使い、趣味のバックや小物など実用品からアートまで幅広く作品を楽しむ。
8	ホール照明講座	1	3	中央公民館ホールの基本的な照明の操作方法から、各照明の名称などを学ぶ初心者向けの講座。
9	みんなのプログラミング教室	6	63	初心者向けの「スクラッチ」という言語でプログラミングを自由に楽しく学ぶ。
10	子どもチャレンジ教室	2	53	家庭や学校と異なる環境で、自主性、創造性、社会性を育むチャレンジ的な体験学習を行う。
11	外国人のための日本語教室	24	168	在日外国人の方々が日本で生活するうえでの言葉の壁を少しでも減らし、地域の人とコミュニケーションをとるための一助とする。
12	子ども折り紙教室	8	170	和紙、折り紙の歴史を学びながら折る楽しさ、折ってからも楽しめる折り紙づくりを行い、折り紙の世界を広げる。
13	シニアモバイル教室	2	62	60歳以上でスマートフォンを持っている方を対象に、LINEやネットショッピングの使い方や防犯などに関する教室を開催。
14	フォトテク上達セミナー	2	25	一眼レフカメラまたはミラーレスカメラの基本操作がわかる方を対象に撮影技術や表現方法のステップアップを目指す。
	合 計	96	1,260	

イ 富津公民館・埋立記念館

1 主な事業と決算見込額

- ・富津公民館管理運営費（22,568,872円）
- ・富津公民館学級・講座関係費（337,551円）
- ・二十歳の集い事業（619,519円）
- ・富津埋立記念館管理運営費（3,696,371円）

2 令和5年度の取組の概要と効果（成果・課題等）

・富津公民館管理運営

施設整備として、浄化槽蓋交換修繕工事、トイレフラッシュバルブ交換修繕工事、階段非常照明器具取替スイッチ配線修繕工事などを実施した。

また、掃除機の故障により、充電式クリーナーを2台購入した。

・富津公民館学級・講座関係

市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全13の学級・講座（前年度比±0）を開講した。

新規の学級・講座として「はじめての日本語ボランティア講座」「コーヒーセミナー」「わたしと家族の「そうぞく」講座」を実施し、学級・講座全体の開催回数は76回（前年度比－14回）、参加延人員1,317人（前年度比－39人）であった。

・二十歳の集い事業

二十歳代表による実行委員会の企画運営により、富津公民館にて、令和6年1月7日（日）に二十歳の集いを開催した。

対象者374人（前年度比－36人）のうち出席者271人（前年度比－14人）で、出席率72.5%（前年度比＋3%）であった。

記念行事として「ふつつ思い出ビンゴ！」を実施し、また、中学3年生時に二十歳の自分宛に書いた「二十歳への手紙」を後日郵送した。

・富津埋立記念館管理運営

来館者数は2,951人（前年度比＋14人）であった。

施設整備として、受付ホール屋根防水改修修繕工事及び浄化槽蓋交換修繕工事を実施した。

○今後の取組の方向性（改善策等）

・富津公民館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者への環境整備に努める。

・公民館学級・講座関係については、前年度に実施したアンケート結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に次年度に向け参加者アンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。

・二十歳の集いについては、二十歳代表による実行委員会が「自ら作る二十歳の集い」として式典の企画運営を担い実施することとし、今後も実行委員会による企画運営を継続する。

・富津埋立記念館については、施設の活用方針を策定する。

教育委員会の自己評価 B

○評価の理由

富津公民館は建築後41年、埋立記念館は32年を経過し、老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。

主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ることができた。

二十歳の集い事業については、二十歳代表者による実行委員を中心に企画、運営を行い、厳粛かつ暖かみのある式典を開催することができた。

以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

No.	講座の名称	開催回数	参加延人数	講座の主旨と内容
1	東京湾学講座	11	251	富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化・自然などを幅広く学ぶ講座で、史跡等の館外学習も実施する。
2	はじめての日本語ボランティア講座	4	25	富津市に在住している外国人が買い物や仕事を含めた日常生活を送れるように、「日本語で支援」するをキーワードに支援の方法・ポイントを学び、定期的な支援活動につなげる。
3	コーヒーセミナー	5	54	体に良いコーヒーの入れ方や、お菓子に合うコーヒーの選び方など、日常で使えるコーヒーについて楽しく学ぶ。
4	長寿楽しみクラブ	5	140	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るために、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。
5	ペーパーアート折り紙教室	8	113	指先を使うことで脳の活性化を図るとともに、多様な紙を用いて季節の飾りや、ペーパーアートなどの作品を作る。
6	エコパッチワーク教室	8	113	エコ・リメイクの意識を高めるため、古着の布と新しい布を組み合わせて使用するパッチワークを学ぶ。
7	古文書を読む会	8	178	地域に伝わる古文書を教材とし、古文書の種類や読み方、そこからわかる地域の歴史について学ぶ。
8	健康スクール	8	175	気軽にひとりでもできる運動を実践するほか、老若男女問わず楽しめる「モルク」「ペタンク」「グラウンドゴルフ」などのスポーツを通じて、日常的に体を動かす楽しさと大切さを学ぶ。
9	キッズSDGsスクール	1	33	普段の生活では機会の少ない体験学習を通じて、挑戦する心・自主性・創造性を育むとともにSDGsについて学ぶ。
10	わらべうた遊びと共育ち合い教室	6	72	ミニ講座・わらべうた遊び・散歩などを通して親子の育ちを学びあう。
11	健康クッキング	4	54	地元でとれる旬な食材を中心に使い、健康な身体を保つためのバランスのよい食事について学ぶことで、健康への意識や郷土への理解を啓発する。
12	ポールdeウォーキング教室	6	74	足腰の弱い方でもポールを使った負担の少ないウォーキング方法を学び、肥満や運動不足からくる生活習慣病の予防、ストレスの解消を図る。
13	わたしと家族の「そうぞく」講座	2	35	「相続」が「争族」にならないための準備を始めるとともに、よりよい未来のための「ライフ&エンディング」を考える。
	合 計	76	1,317	

ウ 市民会館・旧峰上地区公民館
1 主な事業と決算見込額 ・市民会館管理運営費（41,966,544円） ・市民会館学級・講座関係費（278,011円） ・旧峰上地区公民館解体事業（5,280,000円）
2 令和5年度の取組の概要と効果（成果・課題等） ・市民会館管理運営 施設整備として、給水管修繕工事、図書室の空調設備設置工事、空調機燃料タンク更新工事などを実施した。 ・市民会館学級・講座関係 市民に幅広く学ぶ機会を提供し、人づくりや地域づくりを推進することを目的として、全14の学級・講座（前年度比＋4）を開講した。 新規の学級・講座として「ニュースポーツ教室」を実施し、学級・講座全体の開催回数は61回（前年度比＋12回）、参加延人員864人（前年度比＋267人）であった。 ・旧峰上地区公民館解体事業 令和6年度の解体工事実施に向けて、旧峰上地区公民館解体工事設計業務委託を実施した。
○今後の取組の方向性（改善策等） ・市民会館管理運営については、個別施設計画の推進に向け、計画的な施設改修及び施設利用者への環境整備に努める。 ・公民館学級・講座関係については、前年度に実施したアンケート結果や世相を反映し、事業内容を充実させると共に次年度に向け参加者アンケートを実施し、地域の学習ニーズを把握する。 ・市民会館文化事業は隔年開催であり、令和6年度の開催準備として、第1回「ふつつ学びの門」実行委員会会議を開催し、実行委員の委嘱を実施した。今後も、地域における芸術文化の振興と意識高揚が図られるような事業の企画実施にむけて、円滑に運営できるように努める。 ・峰上地区公民館は令和3年度末をもって閉館したため、令和5年度に建物の解体のための設計業務を実施した。令和6年度に建物の解体を行う。
教育委員会の自己評価 B
○評価の理由 市民会館は建築後35年を経過し老朽化が進行している施設であり、各種保守点検業務による指摘箇所について保守補修を実施した。また、図書室へ個別空調機を設置し利用者の利便性向上を図った。 主催学級・講座については、アンケートにより把握した学習ニーズや社会的関心を題材とした内容を実施し、教養の向上や健康の増進などを図ることができた。 ふつつ学びの門については実行委員会を開催し、次年度（令和6年度）の実施に向けて演目の選考など準備を進めた。 旧峰上地区公民館は、次年度（令和6年度）の解体工事に向けて、解体設計業務を実施したほか、施設内の残置物品の処分作業を行った。 以上のことから、事業全体を総合的に勘案し、自己評価は「B」とした。

No.	講座の名称	開催回数	参加延人数	講座の主旨と内容
1	歴史探訪講座	9	172	地域の歴史を文化・自然・人物・史跡などから再発見、学習する。
2	エコ・スクール	6	76	自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学習する。
3	和菓子教室	7	88	日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学習する。
4	コーヒー講座	3	24	体に良いコーヒーの入れ方やお菓子に合うコーヒーの選び方、日常に使えるコーヒーについて楽しく学ぶ。
5	小筆教室	4	33	住所や名前など、生活に役立つ自分が習いたい文字を習う。
6	ディスカバーふつつ	4	48	「ふつつ」の良さ、すごさを再発見するための体験講座。各回15キロ程度歩く。
7	こどもダンス教室	6	157	リズム感を養い、音楽にあわせて楽しく体を動かしながら、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
8	こどもチャレンジ教室	1	11	家庭や学校と異なる環境で、自主性、創造性、社会性を育むチャレンジ的な体験学習を進める。
9	ポールウォーキング教室	6	91	足腰の弱い方でもポールを使い手軽にウォーキングやストレッチをしながら全身運動をする。
10	健康料理教室	5	43	季節の食材を使い、主菜・副菜・デザートなどを料理する。
11	健康増進教室	5	53	健康で生き生きと生活できるすべを学ぶ。(健康な体づくり講座・ハイキング等)
12	シルバー生きがい学級	3	47	高齢化が進む中、レクリエーションや学習を通して、参加者どうしがふれ合い語り合う場をつくることにより、仲間づくりを進める。
13	シニアのためのスマートフォン講座	1	12	スマートフォンを気軽に利用できるようにし、生活における利便性を拡大する。(シニア向け)
14	ニュースポーツ教室	1	9	ニュースポーツ(ペタンク・モルック)を通して楽しく体を動かし、競技を体験学習する。
	合 計	61	864	

外部評価者による評価

外部評価者（Ⅰ）の評価 B

公民館・市民会館利用者数と市民文化祭参観者数・スポーツ関連の行事参加者数については、目標値と令和5年度の到達点に2倍もしくはそれ以上の差があります。再考する必要があるのではないのでしょうか。

生涯学習バスは、多くの利用があり希望する日に利用できない場合も多々あり、保育所の園児も利用しているとのことですが、保育所については、保育活動の一環として利用しているのであれば、スクールバスの利用もできるように配慮しても良いのではないのでしょうか。

市立図書館の開館や電子図書館の開設などで、貸出冊数が目標値を6倍強と大きく上回り増加したことは、たいへん素晴らしいことであると思います。また、蔵書数が大きく増えたことにより利用者数の伸びも期待できます。市民の方々が図書館を利用している様子を見ても、広いスペースの中でゆったりと過ごしている姿がありました。

鋸山日本遺産「候補地域」活用推進協議会事業では、「鋸山石切場遺構・千五百羅漢調査」、鋸山の魅力を来訪者へ伝えるため「有償ガイドの育成」など日本遺産への準備が着実に進んでいることがうかがえます。また、小中学校での「鋸山の教室」の開催は、地域の良さを学ぶ機会としても有効であると考えます。今後も、各学校との連携の中で進めていただきたいと思います。

家庭教育指導員・支援員及び社会教育指導員による「放課後ルーム」や「学習サポート会」の活動を通じて、地域学校協働活動の推進を図り、空き教室を利用した地域住民の「活動の場所」や「居場所づくり」を目指すと思いますが、具体的にはどのようなことをしていこうとしているのでしょうか。方向性を具体的に記述していただけるとよかったです。また、総合型地域スポーツクラブの活動の支援についても、どのようなニーズのもとにどのような支援を行おうとしているのか示していただければと思います。

各公民館や市民会館については、老朽化対策に大変苦勞されている様子がうかがえます。この3館を今後どのようにしていくのか(3館を維持し続けるのか、統合していくのか、新たに建設するのか)検討が必要であると思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価 B

第2項目の「生涯学習の充実」に向けては、生涯学習課、公民館、市民会館で様々な取り組みが進められていることが確認できました。

新型コロナウイルス感染症が5類移行という環境の変化はあったものの、人との接触が避けられないスポーツ・レクリエーションや公民館・市民会館で開催する講座については、容易に感染症以前の状況に戻ることができないことから、苦心が続いていることと推察します。

しかしながら、これまで開催できなかった大会や講座も少しずつ参加者が戻って、賑わいが感じられるようになってきていると思います。様々な工夫の元、すばらしい行事の開催ができるように準備を進めていただけるようにお願いします。

図書館関係事業では市立図書館の開館、電子図書館の開設など図書環境が充実し、貸出冊数も大きく増加、蔵書数も拡充されているようです。引き続き、訪れた市民の方々が気軽に立ち寄ることができ、気持ちよく利用いただけるように工夫をされることを期待します。

日本遺産候補地域となった鋸山の日本遺産認定に向けた取り組みも、鋸南町や関係組織と一体となって継続的に取り組みを展開していることが感じられます。引き続きの取り組みをお願いします。

教育施策の施策目標と到達点については、新型コロナ感染症対策の関係で目標達成ができなかった項目も多々ありますが、新たな目標設定の中で努力されることを望みます。